

ピロティの下駄箱前靴脱ぎ用「すのこ」整備

【建設工学科3年 高橋励・岩田大智（サポート 馬淵友輝・山内柊二・安藤敦輝・安藤諒）】

1 はじめに

課題研究のテーマを校内整備とし、実施したことや製作した活動が、そのまま実際に活用されることにより費用や部材・成果がのこることを目指しました。

2 概要

実際に自分たちの課題研究作品を何にするかを考えていたときに、下足箱前の「すのこ」の整備をする事で、靴を履き替える時の場所としての環境向上のため、使用できない下足箱下の荷物置き場としての有効活用をすることとしました。



3 調査

1) 現場の調査

- ・体育館付近の「すのこ」周りの調査を行った。壁と「すのこ」を間に隙間があり、ゴミなどが散乱していた。

2) 計画

- ・製作品に対する要望を聞き、「すのこ」の隙間を埋めるため、ピロティで以前使用していた木製の「すのこ」を収まるサイズにして再利用する計画をたてた。

3) 木材の加工

- ・再利用する場所の空間の大きさを測り、裁断する長さを決め、「すのこ」との段差などに配慮して、揃うようにしました。



4 作品加工・製作

1) 「すのこ」の清掃

- ・「すのこ」の上や下にあるゴミを取った。「すのこ」の汚れは雑巾で拭き表面をやすりで削り整えた。



2) 「すのこ」の加工

- ・使わなくなった「すのこ」をピロティから持ってきて、「すのこ」の間に収まるサイズにのこぎりで切断した。

3) 「すのこ」の制作

- ・足りない部材の寸法取りを行い、切断と

大きい「すのこ」を納める空間に合わせて
パネルソーで均等切り分けた。



5 仕上げ

1) 「すのこ」の組み立て

- ・固定する箇所にはキリで道穴を空け、ボンド付けを行い、木ねじを打ち固定した。

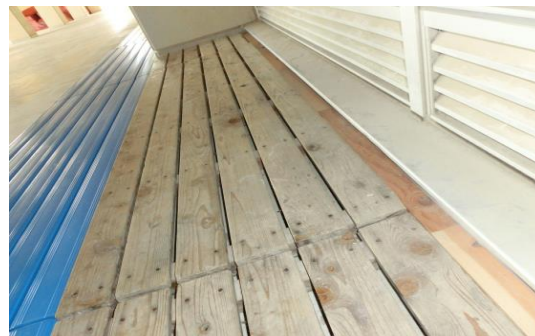
2) 表面の仕上げ

- ・木部の表面は全て綺麗にするために紙ヤスリで研磨仕上げをした。また、角を丸め当たっても怪我をしないようにした。



6 まとめ

要望にそった「すのこ」の改良が無事に完成することができ、さらに当初計画したサイズとぴったりになることが出来とても満足できるものとなった。今回のことで、出来た作品の完成度も大切だが、それよりも計画から調査・検討・製作の過程をしっかりと行うことが大切であるということが解った。



7 感想

～高橋励～

ピロティ下駄箱前の「すのこ」を整備するために古い「すのこ」と実習で出た端材の加工



を行う過程で色々な機械、道具の使い方や採寸取り、切断方法などが学べてよかった。寸法通りに合板を切断すること、ひとつの作品を作る事の大変さを改めて知りました。仕上げ作業では、細かい作業が多くあり、ひとつひとつの作業の大切さを学びました。この「すのこ」製作から、これからは生かしていける経験ができ、学ぶことが多かったので良かったです。

～岩田大智～

ピロティ下駄箱前の「すのこ」整備を行う中で初めて使う機械や道具がありました。



慣れない作業をするので時間かかってしまい、うまくいかない事もありましたが何度も道具や機械を使用していく内に徐々に慣れてきて効率良く作業ができ、色々な技術やコツを掴むことが出来ました。作業に慣れてきたからこそ油断すること無く身の安全と共に周りに気を配り「安全第一」で作業することが出来ました。